

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2009～2013

課題番号：21221011

研究課題名(和文) 牧畜文化解析によるアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明とその現代的動態の研究

研究課題名(英文) Historico-Ecological Studies of Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations and their Modern Changes from the View Point of Pastoralism

研究代表者

嶋田 義仁 (Shimada, Yoshihito)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：20170954

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 157,700,000円、(間接経費) 47,310,000円

研究成果の概要(和文)：家畜文化を有したアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明が人類文明発展の中心にあった。家畜は蛋白資源生産(肉、乳、毛、皮)に止まらない。化石エネルギー使用以前人類が利用しうる最大の自然パワーであった。移動・運搬手段として長距離交易と都市文明を可能にし、政治軍事手段としては巨大帝国形成を可能にした。これにより、旧大陸内陸部にグローバルな乾燥地文明が形成された。しかしこの文明は内的に多様であり、4類型に分けられる。ウマ卓越北方冷涼草原、ラクダ卓越熱帯砂漠、小型家畜中心山地オアシス、ウシ中心熱帯サバンナ、である。しかし海洋中心の西洋近代文明、化石燃料時代の到来とともに、乾燥地文明は衰退する。

研究成果の概要(英文)：For rethinking the human civilization history, we have evaluated the Afro-Eurasian Inner dry land Civilization as its basic and main stream before the modern time from a pastoralist point of view. The animal was the pre modern most important power for men to exploit. The value of domesticated animals was not limited to the production of protein resources. As an excellent way of transport, it has contributed to the formation of long distant trade making its network and city civilization; as that of war and political domination, it supported the formation of Great Empires. Thus a global civilization was established in the inner dry land where distant regions and peoples communicate and exchange together, while 4 kinds of typology can be classified: 1. Northern prairie, 2. Tropical desert, 3. Oasis, 4. Tropical savanna. The destruction was however its modern history because Western modern history was that of ocean centered civilization and fossil energy.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：Afro-Eurasia pastoralism animal power way of transport way of war dry land civilization

科学研究費助成事業 研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地域の研究は、宗教・政治紛争関係において近年著しいが、地域の文化文明の基礎的研究と体系的な研究調査が欠け、乾燥地文明を人類文明史的に再考察する研究は不足していた。それはこの地域の広範な地域が旧社会主義国やイスラーム教国に占められ、現地調査困難な地域であったことにもよる。

梅棹忠夫の『文明の生態史観』や和辻哲郎の『風土』など、アフロ・ユーラシアの乾燥地文化に注目した先駆的研究はわが国にあった。東洋史研究においてもユーラシア中心部から中国と西洋の歴史も考察しようという試みがある。しかし、アフロ・ユーラシアの乾燥地文化を統一的なシステムとしてとらえる視点が弱かった。とくにサハラ南縁アフリカを研究してきた研究代表嶋田には、アフリカとユーラシアが統一的に論じられていないことが問題であった。

しかし、現地調査の積み重ねによって、アフリカとユーラシアを統一的に理解しようとするパイオニアの研究者がわが国に何人が登場していた。そのなかには研究代表がこれまで育成してきた若手研究者もいた。そのような研究者を総動員して、本プロジェクトを立ち上げた。そして、本プロジェクトの基本理念とその研究を国内外の研究者に伝えることによって、あらたに多くの研究者の関心を高めるとともに、若手研究者を育成するという目的も有した。

2. 研究の目的

(1) 乾燥と湿潤の観点からアフロ・ユーラシア大陸の生態構造を、中央部内陸乾燥地域と周辺部湿潤多雨の森林地域にわけるとする。そのうえで、アフロ・ユーラシア(以下 A-E)内陸乾燥地域の文明形成を、人類文明史初期中期における中心的な文明であったことを明らかにする。

(2) その理由として注目するのは家畜文化が有する家畜パワーである。なぜなら、化石燃料使用に至る近代以前、人類が最も自由に利用できたのは家畜パワーであったからである。薪炭などの植物パワーも重要であったが、家畜パワーの重要性が充分認識されていない。家畜パワーは犁耕や深井戸の水汲み、脱穀など日常の生産活動の様々な局面で文字どおりのパワーとして使われた。

とりわけ移動・運搬手段としての役割と、政治・軍事手段としての役割が重要であった。前者によって、A-E 内陸乾燥地域には長距離の商業交易網が張り巡らされ、その交点には交易都市文化が栄えた。後者によっては、巨大な帝国世界が形成されることになった。その結果、遠く離れた A-E 内陸乾燥地周辺に位置した諸地域と諸文化諸民族が交流するグローバルな文明が形成された。乾燥地域各地に点在する小規模オアシスはそのネット・ワークの交点として大きな役割をはたし、このネット・ワークにくみこまれることによって、その価値は増大した。

これにともない、宗教文化も発展した。A-E 内陸乾燥地域は、キリスト教、イスラーム、仏教、

という世界宗教を中心に、ユダヤ教、ゾロアスター教、シャーマニズムなどの宗教文化が栄えた地域である。宗教文化と牧畜文明の関係も考察されなければならない。

(3) しかし広大な地域をおおう A-E 内陸乾燥地文明の内的多様性もおおきい。それを、北方冷涼草原文明(ウマ文化が卓越)、南方熱帯砂漠文明(ラクダ文化が卓越)、アルプス・ヒマラヤ造山帯に相当する中央部山岳地域のオアシス文明(ヤギ・ヒツジ文化が卓越)、南方熱帯サヴァンナ文明(ウシ文化が卓越)にわけて考察する。

(4) しかし家畜パワーに頼る文明は、海洋中心の近代西洋文明と化石燃料にたよる近代文明が到来するとともに、衰退する。そのプロセスを正確に分析する。

3. 研究の方法

(1) 研究分担者連携研究者を A-E 内陸乾燥地文明の 4 地域に派遣し、それぞれの地域の乾燥地文明の特性を、それぞれの家畜文化の特性を明らかにする方向で研究させる。可能なら複数の地域の文明を考察する機会をあたえる。

(2) ただし、4 地域文明は研究仮説であるから、各地域での詳細な民族資料や歴史資料あるいは家畜学や生態学の基礎資料を収集することによって、4 地域仮説を批判的に発展させて、より詳細で実態に即した A-E 内陸乾燥地文明論構築をめざした。

(3) A-E 内陸乾燥地文明の地域構造だけではなく、その内的な複合構造研究も重視した。つまり、地域の生態構造と牧畜、農耕、都市、商業、宗教、工芸などの複合構造である。そのために研究分担者には、家畜学や生態学の専門家から、乳文化研究者、歴史学、宗教人類学、文化人類学、建築文化学者、砂漠化研究者、美術史家など、多様な分野の専門家がふくまれている。

(4) 諸外国の研究者、大学院や博士号取得したばかりの若手研究者も研究協力者として活用して、研究の国際的展開と若手研究者の育成をはかる。

(5) 国際シンポジウムとワークショップを数多く開催する。その際、可能な限り、A-E 内陸乾燥地内諸国の研究者同士(モンゴル、中国、中央アジア、中東、アフリカ)の出会いと共同研究を推進することに努める。

(6) A-E 内陸乾燥地文明研究叢書と A-E 内陸乾燥地文明研究を発刊し、研究成果を内外に発信し、内外の研究者からの批判と支援がえられる共同研究の機会とする。

4. 研究成果

1) 研究活動の概観

・研究メンバー15名および若手研究者を中心とする研究協力者10名が A-E 内陸乾燥地域で調査研究活動に従事した。

・外国人研究者26名を招聘して(マリ2名、アルジェリア2名、カメルーン3名、タンザニア1名、中国8名、モンゴル1名、ドイツ1名、イギリス1名、アメリカ1名、カザフスタン2名、イタリア2名、フィンランド1名、フランス1名)17回

の国際シンポジウム・ワークショップを開催した。
・海外シンポジウムに積極的に参加し、研究成果の公表をおこないつつ、国際共同研究の輪をひろげた（インディアナ大学との共催シンポジウム、中国でのアジア民族学・民俗学フォーラム（嶋田基調講演）、第二回オックスフォード学際砂漠会議、エジプトとトルコでの砂漠開発会議、昆明国際人類学会など）

・A-E 内陸乾燥地文明叢書 11 巻、A-E 内陸乾燥地文明 4 巻を発刊した。前者は、個人のモノグラフが中心（博士論文の出版 3 点）、後者は論文集。
2）研究代表嶋田の成果は、まず『黒アフリカ・イスラーム文明論』（創成社 2010）であり、A-E 内陸乾燥地南縁文明としての黒アフリカ・イスラーム文明を論じた。それは黒アフリカ文明のコベルニクス的革新であったが、教義でなく、都市文化や国家、商業経済、衣服文化など住民生活を支える文明論である点でも評価してよい。次に、『砂漠と文明』（岩波書店 2012）において、本研究の基本課題 A-E 内陸乾燥地文明論の、人類史的視野もくわえて体系的な再構築を試みた。地球環境の 1000 万年にわたる歴史は、氷河期をともなう寒冷化・乾燥化であり、人類形成 700 万年の歴史は地球環境の寒冷化・乾燥化への適応プロセスとして理解可能であると認識したからである。乾燥への適応のみならず、寒冷への適応も新たな研究テーマとして浮上した。この着想から、北欧のトナカイ牧畜民サーメや同じくツンドラ気候の中に生活していた初期ホモ・サビエンスの文化、ラスコー、アルタミラなどの洞窟絵画調査をおこない、「北欧のトナカイ牧畜民サーメ」展を名古屋大学博物館で開催し（2013 年）講演「トナカイ民と岩絵文化を語る」をおこなった。しかしこの問題についての本格的な研究は今後の課題である。

3）平田昌弘も『ユーラシア乳文化論』（岩波書店 2013）という、ユーラシア乳文化を全体として体系的に理解するという壮大な試みをなした。これにアフリカ乳文化論がくわわると、アフロ-ユーラシア乳文化論が完成する。アフロ-ユーラシア全域を駆けめぐる地理学者池谷和信は『地球環境史への問い』（岩波書店 2009）で地球環境史の基本問題を整理した。同時に、獣医畜産新報などで世界の畜産文化を論じる連載を続けた。畜産学の坂田隆は、現在急速に少数化しているラクダ頭数の総合的な統計分析をすすめ、全家畜の世界的な統計研究の序章とした。星野弘方はリモートセンシングと現地調査により、モンゴル、カザフ、スーダンにおいて「砂漠化」の生態学的解明をすすめた。

4）サハラ地域の研究としては、総合地球環境学研究所で「アラブなりわい」プロジェクトを推進した縄田浩志、石山俊、中村亮の成果が目覚ましい。中村・縄田は『マングローブ』（臨川書店 2013）により乾燥地の沿岸文化を明らかにし、中村は、研究協力者稲井啓之とともに、『アフリカ漁民の世界』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 9 も編集した。石山・縄田は『ナツメヤシ』（臨川書店 2013）によりオアシス文化をさえるナツメヤシ文化を明ら

かにしたが、研究協力者高村美也子はインド洋海岸部のココヤシ文化を論じた（A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 11）。星野・縄田編著『外来植物メスキート』（臨川書店 2014）は、砂漠化防止のために導入された外来植物の有害植物化を論じた。さらに石山・縄田編著『ポスト石油時代の人づくり・モノづくり』（昭和堂 2013）では、石油資源の枯渇にみまわれたときの人間生活も論じられた。

サハラ地域研究には、チュニアのオアシス文化研究の鷹木恵子と、ツアレグ牧畜民研究の今村薫、建築文化研究のウスビ・サコモいる。鷹木はオアシス文化とチュニア政変、チュニアのマイクロクレジット文化について旺盛な研究成果を積み上げた。今村は、南アフリカのカラハリの狩猟採集民研究者であるが、サハラのラクダ遊牧民研究に着手した。マリの内戦によって続行困難となったが、あらたに中央アジアのカザフのラクダ文化調査に取り組み、カラハリ、サハラ、中央アジアという 3 つの乾燥地文化研究をすすめることになった。サコは、サハラをめぐる住文化、都市文化研究をすすめた。

5）モンゴル文化とその近現代史研究にも大きな成果があった。ブレンサインによる清朝以来の牧畜民の定住化や他民族交流研究の近代史研究（『多様化するモンゴル世界：内モンゴル東部地域における定住と農耕化の足跡』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 6、）大野旭（楊海英）による社会主義中国によるボモンゴル民族弾圧史研究、

児玉香菜子による改革牧畜文化の変動研究（『脱社会主義政策と「砂漠化」状況における内モンゴル牧畜民の現代の変容』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 1、『極乾内モンゴル・ゴビ砂漠、黒河オアシスに生きる男たち 23 人の人生』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 10）である。注目されたのは定住化や国家政策による牧畜文化変容の問題である。とりわけ大野旭の『墓標なき草原上下』（岩波書店 2009）（司馬遼太郎賞受賞）や『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料』6 巻（風響社 2009-2014）をはじめとする 10 冊に及ぶ研究活動は、社会主義中国における牧畜民族とその文化に対する過酷な弾圧をはじめて明らかにした研究であり、それは公称 56 民族を有する超多民族国家中国の近現代史研究として画期的である。大野はそのうえで、旧社会主義国における牧畜民文化変容の比較研究に着手した（『中央ユーラシアにおける牧畜文明の変遷と社会主義』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 8）。この牧畜文化の現代における激しい変容は、縄田らの試みている石油経済にうるおう中東における変容、嶋田らの黒アフリカ牧畜文化の植民地主義近代化における変容とともに、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地全体において引き起こされている牧畜文化の変容として論じられなければならないであろう。

6）都市文化や建築、衣服、宗教などの第二次第三次産業にかかわる文明については、嶋田の『黒アフリカ・イスラーム文明論』、嶋田編著『シャーマニズムの諸相』（勉誠出版 2013）がまず重要であ

る。前著において嶋田は A-E 内陸乾燥地文明西南地域の宗教文明をあきらかにし、後著においてはユーラシアの土着宗教とみられルシャーマニズムの世界的広がりを考察したからである。

研究協力者中山千冬『アフリカ文学と西アフリカの近代化：セネガルの作家シェク・アミドゥ・カヌの闘い』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 3 も、イスラーム文化、アフリカ文化、植民地主義がもたらした西欧文化の間でアイデンティティの相克に悩むセネガル知識人を論じた文学論である。フランス文学者としての中山は、アフリカ文学としてのフランス文学研究の開拓者である。嶋田も、文芸誌『文芸思潮』50号で同様な葛藤のなかにある「アフリカ文学の風土」の特集を組んだ。

研究協力者水谷徹哉『キブツ・サマル：イスラエル南部砂漠のキブツ』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 4 も、イスラエルの砂漠中に成立された人工的で近代的なオアシスに依るキブツ文化論。

美術史の中川原育子を中心にしてはアフロ・ユーラシアの岩絵文化宗教美術の比較研究が行われた。岩絵や洞窟画は人類最古の芸術表現に属す。それがアフロ・ユーラシア乾燥地の各地に散在している。南アフリカで狩猟採集民研究をおこなってきた池谷、今村、サハラ研究とともにサーム、ラスコー、アルタミラ研究を行ってきた嶋田、それに中国ウイグルとカザフの研究者を招聘して国際会議 2 回を開催した。乾燥地においてホモ・サピエンスの驚くべき芸術活動が開花したのである。7) 本研究の成果には、嶋田や平田に見られるようなアフロ-ユーラシア内陸乾燥地文明についての体系的理解の試みもあるが、むしろ自己評価すべきは、この課題の刺激のもとに、おもいよらない新しい研究がさまざま試みられたことである。それをさらに充実させて、質量ともより豊かなアフロ-ユーラシア内陸乾燥地文明論を構築してゆくのが残された課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 268 件)

- ・嶋田義仁 2013 「サハラ砂漠の政治人類学-マリ北部の独立運動」『情況』3・4 月合併号、71-86 頁。
- ・嶋田義仁 2014 「アフリカの文学風土」『文芸思潮』50号、174 -196 頁、アジア文化社。
- ・嶋田義仁 2014 「A-E 内陸乾燥地文明からみたモンゴル」A-E 内陸乾燥地文明研究 4号、1-20 頁。
- ・嶋田義仁 2014 「内モンゴルの「近代的」すぎる牧畜改革」A-E 内陸乾燥地文明研究 4号、pp. 59-68 .
- ・嶋田義仁 2014 「マリ国の内戦とイスラーム交易都市ジェンネの崩壊」A-E 内陸乾燥地文明研究 4号、pp. 69-88 .
- ・嶋田義仁 2013 「エネルギー危機を前に、現代人類の危機をどう考えるか」石山俊・縄田浩志編『ポスト石油時代の人づくり・モノづくり』昭和堂、pp.59-104.
- ・Shimada Yoshihito 2011, 'Geo-Historical Environment Analysis of Economy: How ca we understand Different processes of modernization in the non-

Western world? In S.Maghimbi, I.N.Kimambo, K. Sugimura eds. "Contemporary Perspectives on Moral Economy, Africa and South East Asia", pp. 123-132. Dar es Salaam: Dar es Salaam University Press (査読)

- ・坂田隆 2014 「ラクダの生体貿易」石巻専修大学研究紀要第 25 号、53-58 頁。
- ・坂田隆 2012 「主要ラクダ飼養国でのラクダ使用目的とラクダ乳およびラクダ肉生産の変遷」『石巻専修大学研究紀要』23.
- ・坂田隆 2011 「各国でのラクダの飼養頭数とラクダ乳およびラクダ肉の生産」『石巻専修大学研究紀要』22: 53-64.
- ・今村薫 2014 「草原の民の末裔-カザフスタン予備調査」楊海英編『中央ユーラシアにおける牧畜文明の変遷と社会主義』A-E 内陸乾燥地文明叢書 8、pp189-207.
- ・今村薫 2013 「模倣行為の広がり 遊びから技術獲得まで」名古屋学院大学論集人文・自然科学篇第 50 巻第 1 号、1-13 頁。
- ・今村薫 2012 「ラクダ遊牧民トゥアレグの家畜管理」A-E 内陸乾燥地文明研究 3 号、pp. 35-46.
- ・今村薫 2012 「トゥアレグの家畜の分類名称体系」A-E 内陸乾燥地文明研究 3 号、pp. 47-55.
- ・今村薫 2012 「ラクダ遊牧民の家畜管理—ティンブクトウ地方のトゥアレグを例に—」名古屋学院大学論集人文・自然科学篇第 49 巻第 1 号、pp.31-47 .
- ・今村薫 2012 「カラハリ人の暮らし：牛をこよなく愛する人々」池谷和信編著『ボツワナを知るための 52 章』pp. 73-77、明石書店。
- ・今村薫 2011 「カラハリ砂漠・狩猟採集民サンへのヒーリング・ダンス」嶋田義仁編著『シャーマニズムの諸相』pp. 120-138、勉誠出版。
- ・ブレンサイン 2013 「地下資源開発とモンゴル人の自然観」(中国語)『内蒙古民族大学学报』第 2 期、4-7 頁。
- ・池谷和信 2012 「バングラデシュにおけるブタの遊牧について」国立民族学博物館研究報告 36(4): 493-529.
- ・池谷和信 2012 「カラハリ先住民の静かな戦い：南部アフリカの先住民運動と政治的アイデンティティ」太田好信編『政治的アイデンティティの人類学：21 世紀の権力変容と民主化にむけて』215-247 頁、昭和堂。
- ・池谷和信 2011 「世界の自然保護と地域の資源利用とのかかわり方」松田裕之・矢原徹一編『シリーズ 日本列島の三万五千年 第 1 巻環境史とは何か』105-123 頁、文一総合出版。
- ・池谷和信 2010 「変わりつつある牧畜民の暮らしと資源利用」篠田雅人・門村浩・山下博樹編『乾燥地科学シリーズ 4 乾燥地の資源とその利用・保全』29-46 頁、古今書院。
- ・池谷和信 2010 「環境保全をめぐる政治と社会」内堀基光・スチュアートヘンリ編『人類学研究：環境問題の文化人類学』201-216 頁、放送大学教振興会。
- ・池谷和信 2010 「肉食を求める人類：動物の脂と人とのかわり方」『ピオストーリー』15: 38-43.
- ・池谷和信 2010 「人と家畜のエピソード(12) アジア その 4」獣医畜産新報 63(12): 972.
- ・TAKAKI Keiko 2010 'L'éthique dans la mondialisation: l'économie et la répartition des richesses, le Microcrédit', *Graines de Lumière: Héritages du Cheikh al-'Alâwî Centenaire de la Voie*

soufie 'Alāwīyya 1909- 2009, Paris: LibrairieAlbouraq, pp. 233-238.

・鷹木恵子 2012「チュニジアの伝統的ナツメヤシ文化: その変容と保存と新たな創造」A-E 内陸乾燥地文明研究 3号, pp. 3-34.

・Buho Hoshino *et al* 2012 "Estimated Soil Moisture in Vegetated Aea Using Multitemporal Multipolarization Data", *IEEE IGARSS*, 2012(1), pp. 654-657.

・Buho Hoshino *et al.* 2012 'Evaluating the invasion strategic of mesquite (*Prosopis juliflora*) in Eastern Sudan using remotely sensed technic', *Journal of Arid Land Studies*, Vol. 22 (1), 2012, pp. 1-4.

・Hirata Masahiro 2014 'Transhumance Adaptation to the Highland from the Perspective of Nutritional Intake', In K. Okumiya ed., *AGING, DISEASE and HEALTH in the HIMALAYAS and TIBE*, Rubi Enterprise, pp.132-236.2014.

・平田昌弘 2012 .「ユーラシア大陸における乳文化の一元二極化論」『*Milk Science*』61(3): 205-215 . (査読)

・平田昌弘、鬼木俊次、2012 .「エチオピア中高地における定住化牧畜民の移動性と旱魃への対処戦略」『*帯広畜産大研究報告*』33: 87-99 .

・平田昌弘 2012 .「モンゴル遊牧民の食料摂取における乳・乳製品と肉・内臓の相互補完性」『*文化人類学*』77(1):128-143 .(査読)

・KODAMA, Kanako 2013 'Adapting to drought and the market economy of the sedentarized Mongolian pastoralists. *Journal on Advances Pure and Applied Sciences*, 1:371-376 (査読)

・石山俊 2013「不安定な降雨変動下のアフリカ半乾燥地農耕民の多様な生業」, *沙漠研究*23(2):67-71. (査読)

・NAKAMURA, Ryo 2013 'Coastal resource use and management on Kilwa Island, Southern Swahili Coast Tanzania', *AWER Procedia Advances in Applied Sciences* 1: 364-370. (査読)

[学会発表](計 289件)

・Shimada Yoshihito 2013 'Dry land Civilization as Network Civilization with Animal Power'in the Global Conference on Environmental Studies (CENVISU-2013), 24 April, Antalya Turkey.

・Shimada Yoshihito 2013 'Fulani Migration Logic Cattle People most widely spread in sub-Sahara Africa' 4 Jun 2013, the 14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons.

・Shimada Yoshihito 2012 'Blue Planet Anthropology and Dry land Civilizations', The Second Asian Forum of Anthropology and Ethnology, the 9-10 November 2012, Beijing, China (Invited Key Note Speech)

・Shimada Yoshihito 2012 'Study of Afro Eurasia Inner Dry land Civilization with the analysis of Livestock Culture and its actual dynamics', 16 nov.2012, Symposium on Dry land Civilization, Indiana University (Invited speech)

・Shimada Yoshihito 2010 'Afro-Eurasian Inner dry land civilizations' vision on Mongol and Japan', Ulan Batr (Invited)

・Shimada Yoshihito 2012 'The Inner Delta of the Niger in Mali and its Eco-Human Complex Production System', in The 2nd Oxford Interdisciplinary Desert Conference at the School of Geography, Oxford University, the 28-30 March 2012.

・嶋田義仁「黒アフリカ・イスラーム文明」第5回アフリカ宗教学国際シンポジウム『再生としてのアフリカ独立50年』平成23年11月27-28日、名古屋大学

・嶋田義仁 2011「シルクロードと人類の移動」中部大学民族資料館秋季連続講演、平成23年11月24日

・鷹木恵子 2013「チュニジア政府開発政策と革命後の農民暴動」日本文化人類学会第47回年次大会(慶應義塾大学)6月9日。

・KODAMA Kanako 2013 'Adapting to Drought and the Market Economy of the Sedentary Mongolian Pastoralists', 1st Global Conference on Environmental Studies, 24 April 2013, Antalya, Turkey

・KODAMA Kanako 2014'Research on Desertification and Human Activities in China', Workshop on China-Japan environmental science collaboration 31 March, 2014 Chiba University

・ブレンサイン 2013「内蒙古东部地区多民族杂居村落社会研究」中国教育部人文社会科学重点研究基地联席会議即『遊牧文化与農耕文化的相互影响』學術研討会 (in 内蒙古大学) 2013年8月31日

・ブレンサイン 2013「北中国における境界の変遷 清代の八旗駐防体制と晋北 綏遠地域の一体化」アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明第9回国際ワークショップ、12月14

・中川原育子 2013「石窟壁画の材料・技法の観点からみた東西交流」A-E 内陸乾燥地文明研究第8回国際シンポジウム「岩絵文化と人類文明の形成-新疆、中央アジア、北欧、アフリカ-」10月26日~10月27日

[図書](計 35件)

・嶋田義仁 2012『砂漠と文明』岩波書店、286頁。

・嶋田義仁編著 2012『シャーマニズムの諸相』勉誠出版、216頁。

・嶋田義仁 2009『黒アフリカ・イスラーム文明論』創成社、352頁。

・嶋田義仁編集責任 2012『A-E 内陸乾燥地文明』vol.1、145頁。

・嶋田義仁編集責任 2012『A-E 内陸乾燥地文明』vol.2、199頁。

・嶋田義仁編集責任 2012『A-E 内陸乾燥地文明』vol.3、120頁。

・嶋田義仁編集責任 2014『A-E 内陸乾燥地文明』vol.4、88頁。

・鷹木恵子 編著 2010『チュニジアを知るための60章』明石書店、380頁

・今村薫 2012『砂漠の女』どうぶつ社、246頁。

・池谷和信編著 2012『ボツワナを知るため52章』, 明石書店、336頁。

・池谷和信編 2009『地球環境史からの問い: ヒトと自然の共生とは何か』岩波書店、367頁。

・大野旭(楊海英) 2009『墓標なき草原上下』岩波書店、276頁、289頁。

- ・大野旭(楊海英)『続墓標なき草原』岩波書店、2767頁。
- ・楊海英編著 2014『中央ユーラシアにおける牧畜文明の変遷と社会主義』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 8、209頁。
- ・楊海英 2013“Ulanhu, A Nationalist persecuted by the Chinese Communists: Mongolian Genocide during the Chinese Cultural Revolution”, A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 5、100頁。
- ・楊海英(大野旭) 2013『中国とモンゴルのはざままで-ウランフーの実らなかった民族自決の夢』岩波書店、280頁
- ・大野旭 2013『植民地としてのモンゴル-中国の革命思想と官制ナショナリズム』勉誠出版、256頁。
- ・大野旭 2009-2014『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料』6巻
- ・ホルジギン・ブレンサイン編 2013『戦前期モンゴル社会関連実態調査資料集成』第一部非開放蒙地調査資料1-6集、近現代資料刊行会、501頁。
- ・ホルジギン・ブレンサイン編著 2013『多様化するモンゴル世界 : 内モンゴル東部地域における定住と農耕化の足跡』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 6、254頁。
- ・NAWATA, H., ISHIYAMA, S. and NAKAMURA, R. (eds.) 2013 *Exploitation and Conservation of Middle East Tree Resources in the Oil Era*. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan. pp. 248.
- ・Nawata Hiroshi ed. 2013 *Dryland Mangroves*, Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan. pp. 132..
- ・星野仏方・縄田浩志編著 2013『外来植物メスキート』臨川書店、270頁。
- ・星野仏方編著 2013『変動する自然環境に左右されるモンゴル高原の遊牧、多様化するモンゴル世界』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 7、102頁。
- ・平田昌弘 2013『ユーラシア乳文化論』岩波書店、500頁。
- ・児玉香菜子『「脱社会主義政策」と「砂漠化」状況における内モンゴル牧畜民の現代的变化』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 1、246頁。
- ・児玉香菜子、サランゲレル、アラタンツェツェグ編著 2014『極乾内モンゴル・ゴビ砂漠、黒河オアシスに生きる男たち 23人の人生』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 10、502頁。
- ・石山俊・縄田浩志編 2013『ポスト石油時代の人づくり・モノづくり』昭和堂、256頁。
- ・石山俊・縄田浩志編 2013『ナツメヤシ』臨川書店、315頁。
- ・中村亮・縄田浩志編『マングローブ』臨川書店、323頁。
- ・中村亮・稲井啓之編 2013『アフリカ漁民の世界』A-E 内陸乾燥地文明研究叢書 9、305頁。

〔その他〕

ホームページ等

<http://afroasia.lit.nagoya-u.ac.jp/dryland/>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

嶋田 義仁 (Shimada Yoshihito)
名古屋大学文学研究科 教授
研究者番号：20170954

(2)研究分担者

坂田 隆 (Sakata Takashi)
石巻専修大学理工学部教授
研究者番号：00215633
鷹木 恵子 (Takaki Keiko)
桜美林大学人文系教授
研究者番号：60211330
池谷 和信 (Ikeya Kazunobu)
国立民族学博物館教授
研究者番号：102111723
今村 薫 (Imamura Kaoru)
名古屋学院大学経済学部教授
研究者番号：40288444
大野 旭 (Ohno Akira)
静岡大学人文学部教授
研究者番号：40278651
ブレンサイン ホルジギン
滋賀県立大学環境学部教授
研究者番号：00433235
縄田 浩志 (Nawata Hiroshi)
秋田大学国際資源学部教授
研究者番号：30397848
ウスビ・サコ (Ousby Sacko)
京都精華大学人文学部教授
研究者番号：70340510
星野 仏方 (Hoshino Buhou)
酪農学園大学酪農学部教授
研究者番号：80438366
平田 昌弘 (Hirata Masahiro)
帯広畜産大学畜産学部準教授
研究者番号：30396337
児玉 香菜子 (Kodama Kanako)
千葉大学文学部準教授
研究者番号：20465933
石山 俊 (Ishiyama Syun)
総合地球環境学研究所研究員
研究者番号：10508865
中村 亮 (Nakamura Ryo)
総合地球科学研究所研究員
研究者番号：40508868

(3)連携研究者

()

研究者番号：